

議会だより



八丈町

No.201

2022.2.25 発行

News Letter From Hachijo Town Assembly

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます

<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>

島のスポーツを盛り上げたい



富士グラウンドでの練習風景

小学生が参加するサッカーチームは 八丈島 SC と大賀郷 FC のふたつ。総勢約 100 人を 10~15 人の大人が指導しています。子どもたちのスポーツクラブとしては最も大所帯かもしれません。八丈島のように南原スポーツ公園の天然芝コートや、富士グラウンドのフットサルコートなどが身近にあるというのは、都会にはなかなかない恵まれた環境です。さまざまな繋がりの中で、プロリーグの選手やトレーナーが来島してくれることも、子どもたちにとってはよい経験となっていることでしょう。最近では女子メンバーも増えてきました。

中学生になるとクラブ活動はひとつしか選択できませんが、課外クラブで頑張っている子どもたちもいます。やがて八丈高校に入学した生徒たちが、中学生までの経験を活かし、八高サッカー部を盛り上げていってくれることが私たちの願いです…と、指導者のおひとりがお話ししてくださいました。議会としてもさまざまなスポーツや文化活動を応援していきたいです。(取材者 岩崎由美)

CONTENTS

「コロナの影響で100億円超に」

令和2年度一般会計決算

- 2P 第四回定例会
- 3P 一般質問
- 7P 意見書
- 8P 視察報告
- 9P 質疑より
- 10P 町民の声

第四回定例会

令和3年12月6、7日

「コロナの影響で100億円超に」

令和2年度一般会計決算

12月の第4回定例会では、令和3年度補正予算、令和2年度一般会計決算、台風災害復興の専決予算承認、条例の改正、議員からの意見書などが審議された。

2年度決算の特徴は、コロナ対策で産業振興費や10万円の定額給付金支給、新クリーンセンターの建設などにより、一般会計予算が前年比34%増え102億円だったことである。しかし、コロナの影響で実施できなかった事業も多く、決算額は98億円で決算時には不要額が発生した。収入の81%は交付金や補助金などの依存財源で、町税や使用料などの自主財源は19%程度。議員からは、「可能な限り予算補正を行い、予算の有効活用を図るようにしたらよかったのでは」との意見や今後の観光集客への期待の声が多く出た。

3年度補正予算では、旧庁舎の解体が終わり、新バス事務所建設費の増加や看護スタッフのコロナ特殊勤務手当予算が承認された。また病院2階病棟に、コロナで面会

禁止中のリモート面会に使う、Wi-Fi（ワイファイ）が付いたことが報告された。

条例改正では、消防団員の待遇改善のため出勤手当の増額が決まった。

定例会後の全員協議会では、企業管理者から経営改善のためバスの路線変更や一部路線での日曜日運休が報告された。以前から提案があり議員の反対で実施されなかったが、バス路線の変更に議会承認は必要なく、4月からの変更が決定した。町営バスの減便は町民の生活と直結する。乗降者を調べ利用者が少なかったという理由だが、もっと住民の意見を聞いてほしかった。

島内公共交通機関が、運行本数の少ない町営バスと民間のタクシーに限られる八丈島。観光客の島内移動や自家用車のない住民の利便性を図る交通手段の充実・確保は課題だ。地域の実情に合ったオンデマンド交通の事業化や試行が全国各地で行われている。町にまかせておくばかりではなく、私たち議員がもっと学び、議論し、住民の期待に応える解決への道筋を提示していくべきだと考える。
(沖山恵子)

主な議決事項

12月定例会 令和3年12月6、7日

- ◎ 専決処分事項の報告及び承認について（令和3年度八丈町一般会計補正予算）
- ◎ 令和3年度八丈町一般会計補正予算
ほか補正予算6件
- ◎ 八丈町職員定数条例の一部を改正する条例
ほか条例6件
- ◎ 東京都市町村公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の増加及び東京都市町村公平委員会共同設置規約の変更について
- ◎ 損害賠償の額の決定について
ほか2件
- ◎ 令和3年度旧庁舎解体工事請負契約の変更
- ◎ 令和2年度八丈町一般会計決算認定について
ほか決算認定3件

- ◎ 災害対策を重視した港湾及び道路整備に関する意見書
ほか意見書1件
- ◎ 議員の派遣承認について（令和3年度東京都町村議会議長会町村議会議員意見交換会）
ほか派遣承認1件

主な会議事項

議会運営委員会 令和3年11月29日

- ◎ 令和3年度第四回八丈町議会定例会について

全員協議会 令和3年12月7日

- ◎ 地熱発電の進捗について
- ◎ 長寿命化計画の見直しについて
- ◎ 乗合バス路線の変更について

一般質問

12月6日
質問者7人

12月定例会では、町政全般へ7名の議員が13項目にわたる一般質問を行いました。掲載した原稿は、質問議員が作成しています。なお、紙面の都合上、質問内容、回答ともに要約したものとなっておりますので、ご了承ください。

質問の録画映像はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/movie.html>



氏名	質問項目
宮崎陽子	1. 地域の顔となる観光案内看板刷新について 2. コロナ禍の複合災害対策 FASTALERT（ファストアラート）と防災DXについて 3. 八丈町広報基本戦略「ネーミングライツ」と広報折込チラシについて
金川孝幸	1. ゴミの削減対策および集積所について 2. 海底火山噴火による軽石被害対策について
浅沼隆章	1. デジタル推進について
山本忠志	1. 火葬場の駐車場の整備・拡大の計画は 2. 八丈町でのブースター接種の実施計画を問う
岩崎由美	1. サイバー攻撃に対する町の関連施設の対応は 2. コロナ禍による町民生活の変化は
沖山恵子	1. 来春の観光予約と集客対策はどうなっているか 2. 児童虐待防止個別支援計画作成やヘルパー導入の予定はあるか
山下則子	1. 「八丈島アイきっぷ」の対象枠の拡大を



宮崎陽子議員

地域の顔となる観光案内看板刷新について

☒ 中之郷の大御堂近くにある朽ち果てた看板について地域住民の方々からご指摘があった。そこで、町の財政負担なく刷新できる取り組みとして表示灯を提案する。全国の自治体で導入実績がある広告付き観光案内板のメリットをご理解いただき、地域の顔となる重要な看板の刷新について町からの見解を問う。

☒ 産業観光課長 ご指摘の古い看板については撤去する。ご提案の観光案内看板は、

各自治体で設置している実績もあり、デジタルを活用した新たな観光案内として利便性が向上するものと考えられる。実施可能か、関係機関と検討する。

コロナ禍の複合災害対策 FASTALERTファストアラートと防災DX※1について※2

☒ コロナ禍での災害対策について、火山噴火、台風地震、津波など、災害が一度に同時発生することによって被害が激甚化する「同時被災型複合災害」が懸念されている。複合災害の場合ハザードマップも役に立たないといわれている中で住民の命を守るコロナ禍での見直しが求められている。八丈町の防災DX行政マネジメントの今後の展開について詳細を問う。

☒ 総務課長 防災マネジメントシステムは、災害対策本部への報告と共有を行うシステムである。台風16号で実際に使用して有益性は確認されている。今後も防災への

デジタル技術の導入について前向きに取り組んでいきたいと考えている。

※1 JX 通信社が提供する AI 緊急情報サービス。SNS などに投稿された、災害・事故・事件などに関する情報を最速で配信している。

※2 地域、経済界、住民、企業らがそれぞれ主体的に防災に向き合い、ICT の力で相互にネットワークを再構築して自律的に災害に備える社会を目指すこと。

八丈町広報基本戦略「ネーミングライツ^{※3}」と広報折込チラシについて

☑ 八丈島でさまざまな活動をされている任意団体やNPOなどから町広報に各団体のチラシを折込んでほしいという要望が多く寄せられている。町の財源を確保して課題を解決するためにも「ネーミングライツ」を提案する。持続可能な財政運営の実現に向けた広報戦略について町の知見を問う。

☑ 企画財政課長 住民のニーズに応えるガイドラインを策定している。ご提案のネーミングライツを導入している自治体もあるので、課題などを整理して検討する。

※3 自治体などが「施設やイベントなどの名前を付ける権利を売却すること」を指す。売却する側にとっては収益を得る手段として、取得する側にとっては広告効果が期待できる一つのツール。



金川 孝幸 議員

ゴミの削減対策および集積所について

☑ ゴミの削減に向け、特に悪臭やカラスの被害防止に効果のあるコンポスト貸与事業を推進しなければならない。コンポストの貸与実績と購入単価は。庭に畑がなくコンポストの設置ができない家に生ごみ乾燥機の購入補助を行う考えはないか。ゴミ集積所の汚れは観光客や移住定住を考える人に悪い印象を与える。ゴミ集積所へのケージの設置ルール制定や補助は考えてないか。

☑ 住民課長 コンポストの貸与実績は平成

30年度231基、平成31年度141基、令和2年度152基。単価は130Lで8,235円、230Lで12,761円。生ごみ乾燥機は電気を使い環境に優しくなく、ペラング用コンポストは試したがよい結果ではなかった。集積所の管理は周辺住民に任せている。住民負担で設置した例もあり公平性を考えケージの設置補助は考えてない。

☑ ゴミを安易に焼却しないでリサイクルを考えなければならない。生ごみ乾燥機の購入補助は全国の約6割の市町村で行われている。電気式に加え微生物を使うハイブリッド型もあり、ゴミのリサイクルに加え収集車の回収負担の削減など多くの効果があるので再考する考えはないか。

☑ すでに検証しているが、よい結果は得られなかった。今後よいものができれば検討したい。

☑ ゴミ出しルールで間違いやすい事例を収集業者から聞き、その内容もふまえ、防災無線により周知が必要と思うが。

☑ 防災無線については「全島一斉に守りましょう」というような周知は検討する。

海底火山噴火による軽石対策について

☑ 福岡ノ場の海底火山噴火による軽石の被害が沖縄などで出ている。島に大量に漂着したり近海を漂流した場合に、漁業者の安全と物流の安定を守るために最悪の事態を想定した町の対応は。

☑ 総務課長 軽石の流入防止のオイルフェンスの設置や回収保管体制はできている。漂着情報については漁業無線で漁業者に提供して備えている。物流の安定については都と協議し対応する。



浅沼 隆章 議員

デジタル推進について

デジタル協議会が発足して新しい取り組みも始まっていると思われる。八丈町とし

でも島民が快適に生活するためにデジタル化を推進しなければならない。地域住民が身近に感じ利用するもので、デジタル化が求められるものに、病院の受付と精算がある。

今後も新型コロナウイルスの感染拡大が起こる可能性がある中、感染対策の1つとして病院での滞在時間を最小限にすることが求められている。そのためには受付業務をデジタル化し、家や外出先からでも病院の予約ができるようにすることが必要である。それにより利便性の向上と感染対策、病院スタッフの仕事量軽減にもつながる。

病院のシステム改修を行ったばかりであることは理解しているが、上記のことを踏まえて質問する。

問 病院の予約受付をパソコンや携帯から行えるようにする方針があるか。

答 病院事務長 常設診療科受診時に予約という方式を採用している。また、臨時予約診療が欠航などで休診となった際の予約変更を看護師が一人ひとりに残葉などを確認しながら予約変更を行っているため、オンライン予約システム運用の導入予定はない。

問 自動精算機の導入やキャッシュレス決済が行えるようにする考えがあるか。

答 病院事務長 今後状況を見極めながら導入費用、システム費用、手数料負担、導入時のランニングコストなど精査をしながら導入時期を検討する。



山本 忠志 議員

火葬場の駐車場の整備・拡大の計画は

問 最近、火葬場の駐車スペースが足りないために、途中の町道で大渋滞が頻発するようになった。さらに、途中で下車して徒歩で会場に向かう会葬者も散見され、特に、通夜の際は交通事故の危険性も看過できない。今後の安全・安心のためにも駐車場の

整備・拡大が必要と考えるが、町の所見と今後の計画を伺う。

答 住民課長 八丈町火葬場には、アスファルト舗装による大型バス2台、普通車38台分の駐車スペースのほか、火葬場に至る途中の道路脇に、本年度で新たに約8台分の駐車スペースを確保したほか、未舗装ではあるが都道近くに十分な広さの駐車スペースを整備している。火葬場周辺は土砂災害特別警戒地域に指定されており、現時点で駐車場の拡大は困難なため新たな駐車場整備計画はない。ただし、夜間の歩行者の安心・安全のために街路灯の新たな設置が必要と認識しており、検討しているところである。

答 総務課長 火葬場にいたる町道の街路灯や歩道については、調査して適切に対応していく。

八丈町でのブースター接種の実施計画を問う

問 現在、厚生労働省では、新型コロナウイルスワクチンのブースター接種（3回目接種）を推進すべく取り組んでいる。八丈町のブースター接種実施計画と、新たに発生したオミクロン株への対応について伺う。

答 福祉健康課主幹 八丈町では、令和4年1月より医療従事者を対象に、翌2月を目途に高齢者の一部を対象として接種することを計画している。詳細は、町広報1月号に掲載予定だが、まず最初に85歳以上の方向けに1月14日に通知を発送し、予約期間は1月16日から1月20日までとし、1月31日から2月4日に接種する予定。その後、前回同様に5歳刻みで、順次、接種する予定となっている。オミクロン株については、国からの連絡は何もきてないが、今後、国の動向を見ながら対応していく。



町職員によるワクチン接種のシミュレーション風景



岩崎由美議員

サイバー攻撃に対する町の関連施設の対応は

つるぎ町立半田病院がランサムウイルスに感染し、システムダウンした。

問 八丈町各施設において、デジタル化の進行状況および管理運営は。

答 病院事務長 八丈病院は今年度10月1日より新電子カルテシステムの運用を開始。ネットとは完全分離し、専用回線によって保守できる状態である。全ての端末にアンチウイルスソフトが入っている。

答 教育課長 学校での個人情報、デジタルデータと書類（紙媒体）で保管している。

問 安全対策は。

答 企画財政課長 令和6年度以降に国が整備中のガバメントクラウドへの移行が開始される予定。現在は情報収集しながら検討を行っている。

問 地域の実情を踏まえた基盤整備を要望しては。アナログ情報も残しているか。

答 企画財政課長 役場内については国からの情報収集をしているところだが、病院、学校についても情報収集をしたい。

答 病院事務長 防災委員会を毎月1回開催。紙媒体による運用も考えている。

コロナ禍による町民生活の変化は

問 八丈町内の感染状況などは。

答 総務課長 島外者の陽性判明も含め、12月6日現在22名を確認。感染経路は特定されていない。病院では負担が増大。ワクチン接種対応で役場職員にも多大なる負荷がかかった。

問 町民の生活状況は。

答 産業観光課長 今年4月以降、廃業したという情報はない。生活保護申請件数はコロナ禍以前と比べほぼ横ばい。生活困窮者の支援制度の申請件数は11月末時点でのべ約30件。生活福祉資金の特例貸し付けによる緊急小口資金と総合支援資金の貸し付け

は、11月末時点で両方合わせて109世帯、1億80万円。令和2年度に商工会で受け付けた雇用調整助成金の申請件数は19件、休業支援金は23件で、今年1月からの緊急事態宣言発令の影響による受付件数は61件。

問 学校現場での問題点や課題は。

答 教育課長 端末をひとり1台配布したことで、長期休校時のオンライン授業が可能となった。交流活動もオンラインに切り替えることで対応。

問 コロナによってプラスに変化したことは。

答 総務課長 リモートによる会議など、新しいことを試せる機会が増えた。

問 住民生活に問題は。コロナだけが原因ではないが物価が上昇している。

答 産業観光課長 事業者に関しては、都の協力金などを多く事業者が受給した。物価上昇についての調査などは実施していなかったが、今後の動向を含め情報収集に努めたい。

問 今回のコロナ禍において、保健所との連携が難しかったのでは。

答 総務課長 これまでよりは情報を出していただけるという話が進んでいる。



沖山恵子議員

来春の観光予約と集客対策はどうなっているか

問 コロナの緊急事態宣言も一段落し観光客が増えたように思う。今後の八丈町の集客対策やフリージアまつりの観光バスの予約状況はどうなっているか。

答 産業観光課長 観光バスの予約は好調で12月～4月まで345件入っている。実施までには変動するが、フリージアまつり期間中も142件入っている。集客のキャラバンも例年どおりやる予定。

問 以前、副町長が「鬼滅の刃」の登場人物（蛇柱）が八丈島出身の設定になっていると言っていた。鬼滅の刃は大人気で調べた

ら、女護ヶ島の伝説がモチーフで、女性しか生まれぬ家系に生まれた奇跡の男子で蛇の生贄にされたが生き延び、鬼退治の剣士になった。蛇に口を裂かれ、容姿にコンプレックスを持っているが愛情深く、思い続けた人と来世で結ばれ、ともに定食屋をするという設定だった。蛇ではなく、愛情深く一人の人を思い続けた人、食事という観点で見れば、島に来た人にアピールする材料になると思った。副町長はどのようにしたかったのか伺いたい。

☒ 副町長 八丈に関係するものはPRに繋げるよう常にアンテナを張り、課長ほか各方面にも問い合わせに注意するよう指示している。鬼滅の刃は市場規模も大きく、現在具体案はないが今も注視している。

児童虐待防止個別支援計画作成やヘルパー導入の予定はあるか

☒ 厚生労働省が児童の虐待防止のため、個別支援計画を義務づけ、家庭にヘルパーを派遣し、相談に乗り、家事や育児を手伝う制度をつくると聞いた。育児を放棄し子どもの面倒を見ないことも虐待の一種だが、今までできなかった直接支援ができるなら、ヘルパー導入に取り組んでほしいが、町の予定はどうか。

☒ 福祉健康課長 町でも児童の虐待に関する相談は増えており、個別支援計画を作成し、関係機関とともに対応している。新制度が始まれば今後適切な療養環境を整えていきたい。



山下 則子 議員

「八丈島アイきっぷ」の対象枠の拡大を

☒ 介護などが必要な親族を看るために八丈島に帰省する方々にとって、航空運賃は相当な負担となっている。陸続きであれば車や電車などの公共交通機関を使用して、そ

の日のうちに自宅に戻ることもできるであろうが、遠く海を隔てた八丈島では叶わない。2020年から、島出身の島外学生も「八丈島アイきっぷ」の利用対象となったが、さらにもう一步枠を広げ、たとえば「交流人口以上、定住人口未満といわれる関係人口」や「島民の二親等以内の親族」などにも利用枠を拡大していただきたいと思うが、町の見解を伺う。

☒ 企画財政課長 準島民制度には国の基準が3点ある。

①島民が扶養する島外在住の児童生徒

②移住定住施策の一環として来島する者

③交流施策の一環として研修実習等行う者

このうち②③は、例えば町が独自事業として大学と協定を結び、定期的な研修が必要。対象枠を拡大するには国に緩和してもらう必要があり、町単独ではハードルが高いため、全国離島振興協議会から国に要望を出している。町としても国境離島の自治体と連携し、国に要望を継続していきたいと考える。

意見書

今回の定例会では、「災害対策を重視した港湾及び道路整備に関する意見書」と「離島振興法の改正・延長を求める意見書」が議員発議により上程された。前者は討論（反対意見2、賛成意見2）が行われたのち、採決（賛成7）を経て可決された。後者は全員賛成により可決された（12月7日）。

また「ウイグル等の人権問題に対し国に調査を求める意見書採択のお願い」という陳情も上程されたが、賛成少数（賛成6）で不採択となった。

採択された意見書（2件）の要旨

◎災害対策を重視した港湾及び道路整備に関する意見書

町民の安全を守るためには、過去の災害に加え八丈富士の噴火など、あらゆる災害を想定した避難計画を策定する必要がある。

「東京防災プラン2021」には、島しょ地域における地震・津波・火山噴火に対応する公助の取組と

して、港湾・漁港施設の耐震強化等による緊急輸送機能の確保や津波避難施設等の整備、火山噴火に備えた施設の整備促進が示されている。

町民のより安全な避難経路を確保するため、島内における道路・港湾等の交通インフラを速やかに整備する必要があるため、下記事項について実現されるよう強く要望するものである。

1. 神湊港（底土港）の接岸率向上のため、三原山側からの防波堤を整備すること。また、防波堤は大型船の接岸も可能な機能を有すること。
2. 東畑交差点から護神交差点間の道路を拡幅、無電柱化し、安全性の向上を図り、避難経路を確保すること。

提出先 東京都知事 小池百合子

◎離島振興法の改正・延長を 求める意見書

離島においては、昭和28年に離島振興法が制定されて以来、離島振興政策が推進され、生活条件の

改善、産業基盤の整備等を中心とする社会資本の形成が大きく進展した。

離島は、我が国の領域、排他的経済水域等の保全、海洋資源の利用、多様な文化の継承、自然環境の保全とあわせて、自然との触れあいの場及び機会の提供、食料の安定的な供給等、我が国及び国民の利益の保護及び増進に重要な役割を担っている。

しかしながら、離島においては、厳しい自然的・社会的条件の下、人の往来、生活に必要な物質等の輸送に要する費用が他の地域に比較して多額であることのほか、医療提供体制や産業基盤、生活環境等が脆弱といった本土との地域格差は、引き続き対応すべき課題である。また、人口減少や高齢化が進展するとともに、基幹産業である一時産業の停滞など、離島をめぐる状況は依然として厳しく、一層強力に離島振興政策を推進していく必要がある。

よって、国においては、現行の離島振興法が令和4年度末をもって失効することから抜本改正の上、恒久法化も視野に入れて延長されるよう、強く要望する。

提出先 衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣
国土交通大臣 内閣官房長官

「八丈町議会初！オンライン行政視察」

日時 令和4年1月12日（水）午後2時～

目的 議会におけるタブレット端末導入などについて

出席議員 奥山幸子、浅沼憲春、宮崎陽子、浅沼隆章、山下則子、山本忠志、沖山恵子、菊池良、小川一、山下巧、岩崎由美、金川孝幸、廣江才

本来は、直接「飯能市議会」と町田市（グリーンスローモビリティ）に訪問する予定でしたが、コロナ禍での諸事情により、急遽前者のみオンラインでの対応となりました。八丈町議会での初の取り組みです。飯能市議会でのICT化をはじめたことのきっかけは、東日本大震災だったそうです。「資源を大切に使う当たり前の原点を見直す」という観点から、経費節減をはじめ、議会と執行部が情報伝達の迅速化を図り、



議会事務局の業務効率化、環境負荷低減、災害時等の危機管理対応の向上など、メリットが多いとの説明がありました。

八丈町の大会議



室にて、実際に大画面スクリーンで共有したことにより、オンライン実現に向けてのイメージが湧きました。八丈町議会から、タブレット導入を視野に入れた質問がいろいろあった中で、執行部側の事務負担を心配する意見もありました。

これに対し、飯能市議会の事務局担当者の方々から、丁寧なご説明があり、理解が深まりました。導入に関する予算については今後の検討課題です。

（八丈町議会 行政視察委員 宮崎 陽子）

質疑より

● プラザ公園の今後の整備計画は



廣江 才 議員 委託料71万円が補正で出ている。公園は使われている様子がない。グラウンドゴルフ場を整備するという話を以前聞いたことがあるが、将来的に大勢の人の利用が見込める計画があるかどうか。

建設課長 非常に人気のある公園と認識している。71万円については遊具の修繕が主な内容。公園の利用はキャンプ場と遊具で遊ぶ家族連れの方がメイン。グラウンドゴルフ場については、要望などがあれば検討することは可能。

● 避難所に高齢者用の段ボールベッドを



浅沼 憲春 副議長 台風避難の際、公民館の平床は、高齢の方にとって膝に負担がかかる場合がある。段ボールのベッドを設置できないか。

総務課長 避難所に来られた高齢者の方には、我慢を強いているのが現実。申し出ていただければ、数は限りがあるがベッドの用意はできる。段ボールベッドは島の気候上、保管が難しい。都からは必要なら送るといった話はあるが、その辺の対応ができるかどうか検討している。

● 地域包括支援センターの活用状況は

金川 孝幸 議員 社会福祉法人に委託していた地域包括支援センターの業務を町と協働するようになったが、どのように変わったか。

福祉健康課長 今まで培ってきた情報もあり、現在も社会福祉法人と連携している。町の方でいったん相談を受けて、例えば「福祉用具を使いたい」といった時には、社会福祉法人の方と一緒にフォローしていく。毎月包括支援センターの職員の会議を行い、情報の共有は常に行っている。

● 損害賠償の後遺症は保険の範囲か



山下 巧 議員 学校での事故は後遺症のリスクもあると思う。後で出てきた場合は保険の対象となるのか。

教育課長 けがの程度に関してはスポーツセンターが判断し保険が支払われる。医療費、診察費以外の交通費、宿泊費は八丈町立小中学校児童生徒損害賠償金支給要綱に基づき町が支払う。

※ 生徒が中学校から通常時と同じ経路で下校していた際、周辺が暗くて足元がよく見えない状態で、道の途中のくぼみのような部分につまずいて転倒し、右手首を地面について痛めた事故が発生。独立行政法人日本スポーツ振興センター災害給付金以上の損害が生じたため、この損害を賠償した

● 地域おこし協力隊の今後は

岩崎 由美 議員 地域おこし協力隊がひとり退職した。やっていたことは完了しているのか、また今後どのような分野で募集するのか

企画財政課長 通常は3年かけて行うことが完了した。来年度は国の移住定住に関わる支援員制度も導入したい。地域おこし協力隊も再エネ関係で採用できればと考えている。

● 成人年齢が引き下げられたときの八丈町の成人式の方向性は

浅沼 隆章 議員 成人が18歳に引き下げられるが、成人式はどのようになるか。

教育課長 令和5年の成人式をどうするかということが全国で議論されている。町としては「二十歳を祝う会」や「二十歳のつどい」という名称に変更してお祝いしたい。これらの件について八丈高校生にアンケートをとる予定である。

楽しい！「がじゅまる」と「とびっこ」

昨年12月某日、三根小学校の放課後子どもプランを見学し、指導員のかたからお話を伺いました。

教室に入りびっくりしたのは、ランドセルの数！棚がいっぱいで床に山のように積み上げられています。指導員リーダーの磯崎美智子さんに伺うと、「100人くらいの日にはもっと大変です、2教室ぶち抜きの部屋だと良いのですが…」とのこと。この日は全部で80人近くの児童がいました。

文科省管轄の「がじゅまる」は授業終了後から4時（冬期）まで、厚労省管轄の「とびっこ」は同6時まで児童を預かります。「とびっこ」は1日当たり300円の利用料（おやつ代含む）がかかります。

4時になると、がじゅまるの児童たちは家路につき、指導員も7人中3人が帰宅。残ったのは12人のとびっこメンバーです。ここでおやつタイムになります。

4時30分に2人の指導員が帰宅し、「とびっこ」終了までは2人の指導員で対応します。おやつタイム終了後、宿題を済ませて外で遊ぶ子、読書をする子など保護者が迎えに来るまで過ごしていました。保護者からは、この事業のおかげで助かっているとの声をお聞きしました。



現場を見て、学校と自宅の間の楽しい居場所が放課後子どもプランなのだと感じました。指導員は、子どもたちが安全・安心に過ごす場としてこの事業に誇りを持って働いていることも伝わってきました。

ただ、児童数に対し指導員の数は足りていないと感じました。どこの職場でも人手不足ですね。

(取材・山下則子)

【あとかぎ】 生まれた時からパソコンなどのデジタルツールに囲まれて育ったジェネレーションZ。世代分類を指す言葉としてアメリカで誕生した区分呼称が日本でも広まっています。いわゆる「デジタルネイティブ」といわれる1990年代～2010年代生まれ。独自の豊かな感性を持つと評されています。

高齢者スマートフォン 無料体験会に参加しました！

東京都デジタルサービス局主催・高齢者向けスマートフォン無料体験会を取材しました。東京都の担当者をはじめ、指導者として対応していた八丈高校の生徒さんや参加者の方々からの声をお届けします。



<参加者の声>

携帯が壊れてスマホを購入したものの、コロナ禍で購入会社の講習も中止で、活用の仕方が理解できず困り果てていたため絶好の体験会でした。多くの活用法を学び、まだまだ初歩ですが利用方法が広がりました。高齢者には社会参加の機会として活用できると思いました。

<高校生からの声>

スマホについてレクチャーする中で、一番理解が難しそうだった点は「タップ」という概念です。ガラケーを使っていた人たちは「ボタン」という固定観念にとらわれている面が見受けられたので、詳しい解説が必要だと思いました。

<東京都より>

高校生との取り組みという新たな事例を蓄積することができたので、今後の展開に役立てていきたいです。

(取材・宮崎陽子)

「Z世代を制する者が次の時代を制する」ともいわれ、風の時代に移行している現在では、スピード感を重視した未来を共創し、Z世代にも対応できる新たな視点や価値の理解、そして多様性を尊重しながら相互の知恵の結集が求められています。

(編集委員：宮崎陽子)

発行人 八丈町議会議員 奥山幸子

編集 議会だより編集委員会 委員長 岩崎由美 委員 宮崎陽子 山下則子 沖山恵子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437 メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

